

市長会見の項目（概要）

と き：平成30年5月24日(木)14:00～

ところ：市政記者室

■ 大阪市版「ネウボラ」の実現にむけて検討を進めていきます

<担当：こども青少年局子育て支援部管理課 電話：06-6208-8110> 【フリップあり】

- ◆フィンランドでは、妊娠期から子育て期に至るまでの切れ目のない手厚い支援がなされている。この支援の中核をなしているのが、「ネウボラ」である。
- ◆「ネウボラ」とは、フィンランド語で「アドバイスする場所」という意味で、切れ目のない支援をワンストップで行う制度とそのため地域拠点そのものも指している。
- ◆この「ネウボラ」は、できるだけ同じ担当者であるネウボラ保健師が継続してサポートしていることが特徴的である。
- ◆また、こどもの健やかな成長や発達への支援だけではなく、両親であるその子の家族への支援も行っている。

- ◆現在、大阪市では、区役所窓口で妊娠届出をされた時には、すべての妊婦に保健師が面接をして母子健康手帳を交付し、妊娠、出産、子育てに関する相談支援を区役所でおこなっている。また、妊産婦や子育て家庭を支援するためのさまざまな制度・事業を行っている。
- ◆しかし、妊娠、出産や子育てに関して、誰に相談していいのかわからない、どこに相談していいのかわからないという声も聞こえてくる。悩みや困りごとを抱える市民が行政窓口で相談し、その方に必要な支援に繋がるように、自分の住んでいる地域を担当している保健師が区役所にいることを周知し顔の見える化をする。さらに、妊娠から子育てまで切れ目のない相談・フォロー体制の構築に向け、大阪市版「ネウボラ」の検討を進めていく。

【次頁あり】

- ◆大阪市版「ネウボラ」の実現に向けて、まず試験的に西淀川区ではこの2月より、お住いの地域の担当保健師名を記入した案内をより身近に感じていただくように保健師の顔写真入りで母子健康手帳交付時にお渡しする取組みを始めている。
- ◆またこの間、母子健康手帳交付時に説明する子育てに関する制度や情報について整理し、すべての妊婦に面接をすることで、より相談しやすいきっかけづくりとなるよう課題整理をすすめてきた。

- ◆西淀川区の取組みについての検証をはじめ、保健師の顔の見える化など大阪市版ネウボラに向けた検討を「区長会議 こども・教育部会」においてワーキングを新たに立ち上げ、今年度中にワーキングでの意見を取りまとめ、来年度中に全市展開を図りたい。
- ◆妊娠から子育てまで切れ目のない相談・フォロー体制を構築し、安心して妊娠、出産、子育てができるまち大阪市を実現したい。